さいんそる節

本調子

チョウ　ヌクタルガツィクタンバヰ　ツィビフギャリティル

六　六八七　六　工尺中尺工　工六四　老四中尺工六

ヲウ　スィギティ　イタヂリミ　ヌチヌヰチタル

工尺中　四　合　六　六八七　六　工尺中尺工　工六

ミ　ファファ　トゥシーツォンツォン　カネル　ム

四　老四中尺工六工尺中　四　〇　七　六　七　〇

ヌ　ウミカキタミ　ヲウカ　シャ　バ　カ

六　八　八　六　七　〇　工　尺　工　六　工尺中

ヰ　シタリガツォンツォンヤ　ツォンツォン

四　合　四　老四中尺工六工尺中　四　合　六　六八

七　六　工尺中尺工　工六四　老四中尺工六工尺中

四

さいんそる節

本調子

一、京の小太郎が作たんばい
尻ほげ破れ手籠尾すげて
板切目貫き乗り来たる
みいははとしいつやうんつやうん
やんざいかふすや馬舞者
がいず舞うた獅子舞うた
かにあるものお目かけため
をかしやばかり
シタリガツヤウンツヤウン
ヤアツヤウンツヤウン

二、東西東西聞きめしやうれ
まこと名にあふ塩屋港
出船入船絶間なく
浦々諸船の舟子ども
苫を敷寝に梶枕
あわれに歌う節々を
きくにつけても袖ぬるる
山の端出る月かげに
海士の釣舟漕ぎつれて
沖の方にぞ出て行く
我身も世渡る営みに
梅やさくらに杜若
山吹長春風車
花の色々かごに入れ
村々里々行き巡り
これ買やひたばうれ
踊てお目かけら